令和７年度学校評価表

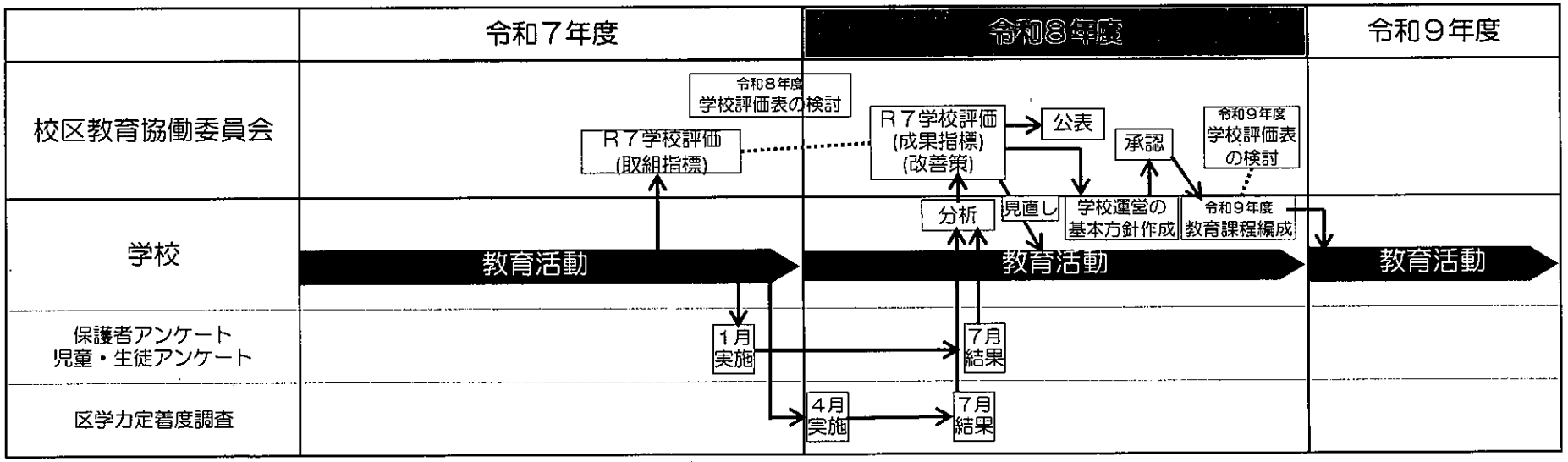
品川区立清水台小学校　　校長　　髙橋　健一
清水台小学校校区教育協働委員会　　委員長　　山口　晃弘

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正　令和5年３月２４日 教育長決定 要綱第５号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

(1) 学力に関すること。
(2) 人間性や社会性に関すること。
(3) 体力・健康に関すること。
(4) いじめ防止の取組に関すること。
(5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。
学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和７年度の学校評価が令和８年度および令和９年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和７年度　学校評価　品川区立清水台小学校

評価項目１　学力に関すること

重点目標	・主体的に学習に取り組み、自ら考え、判断、表現し、課題解決していく子を育てる ・自尊感情をもち、自他を大切にする子を育てる ・健康・安全を意識し、すすんで体を鍛える子を育てる		

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①基礎学力	区学力定着度調査において、2～6学年で目標値、全国正答率を上回る。もしくは前学年時の標準スコア以上になる。	全国正答率について、国語2345年は↓6年は↑、算数23年は↓456年は↑、社会4・5年↓6年↑、理科45年↓、6年↑、英語6年↑という結果であった。未達成であった。	B	国語は「情報の扱い方」や「書くこと」に課題が見られる学年が多かった。記述の仕方についての指導（題意に沿った回答の仕方）を行うとともに、書くことに慣れさせるよう授業で取り上げる頻度を上げる。 算数は、「活用」「記述回答」に課題が見られた。問題を読み取る練習や、設問読解に取り組み、グループ学習や交流等で、自分で題意を読み取る練習と積み重ねを行う。
	朝の帯時間では、週2回は国語、週1回は算数に取り組ませる。計算・漢字だけではなく、文章題にも取り組ませる。	朝の帯学習において、先の通り取り組むことができた。	A	
	「iPadを使って授業はわかるようになる。」の肯定率が全学年で80%上回る。	i-check（児童質問紙）の該当箇所の結果は、50%程度であった。情報教育年間指導計画を立て、ロイロノートを学習で効果的に活用する指導を通して情報活用の実践力と情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度の育成を図っている。	C	タブレットの活用方法に改善が必要と考える。授業がわかるようになるタブレットの使い方を探らなければならない。友達の回答の共有やタブレットを使った等、ICTの特徴と長所を生かした活用場面を増やす。授業での体験活動を増やし、主体的に活動できる機会を作っていく。思考力を高めるために、自ら課題を立てて解決していく学習を増やしていく。
②授業改善	「好きな教科や授業がある」の肯定値が全国平均値を上回る。	肯定値について、2・4年では下回り、3・5・6年では上回った。	B	
	学習指導のねらいを明確にし、児童に見通しをもたせ、主体的に学習活動に取り組ませる。	授業時間の始めにめあてと学習の流れを示して進めることができた。それが主体的に学習に取り組ませることにつながったかは、個々の時間によってちがうと考える。	B	
	授業ごと、単元ごと等にめあてに対する振り返りの時間を設け、分かったことや学んだこと等について振り返り活動を行う。	授業ごと、単元ごと等に、振り返りを行うことができていた。校内研究会で「深い学びを実現する児童の育成」について研修を行っている。講師を呼んでAIによる授業分析を実施し、教師の伝える力について研修している。	B	・タブレットのAIドリルを使い、個別最適化された問題に取り組ませることで、個々に配慮した宿題に取り組ませる。 ・年2回の読書旬間、朝の読み聞かせ、図書委員会の年間の活動を通して、読書の楽しさを知らせていくことで、読書週間につなげていく。
③学習と読書習慣	漢字・計算の繰り返し学習や理科・社会の振り返り学習にタブレット端末のロイロノートを活用する。	ロイロノートを活用して反復や振り返りを行うことができていた。	B	
	1週間に何冊本を読みますか」の肯定率が全国平均値を上回る。	2・3年は上回り、4・5・6年は下回った。月1回の読み聞かせの時間、週1度の図書の時間を確保して実施している。読書旬間での朝読書、教員による読み聞かせ、読書記録カード、本に登場する料理の献立等を実施している。	B	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立清水台小学校

評価項目２　人間性や社会性に関すること

重点目標	・主体的に学習に取り組み、自ら考え、判断、表現し、課題解決していく子を育てる ・自尊感情をもち、自他を大切にする子を育てる ・健康・安全を意識し、すすんで体を鍛える子を育てる

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①規範意識	「学校やクラスのきまりを守っている」の肯定率が全国平均値を上回る。	すべての学年で全国平均値を上回った。	A	挨拶を進んでしていないと自覚している児童が全国平均に比べて多いことが課題である。全校朝会や委員会活動、学級指導や市民科の時間等、学校の教育活動全体を通して挨拶を進んですることへの意識づけを進めていく。
	「あいさつを進んでしている」の肯定率が全国平均値を上回る。	2・3年では下回り、4・5・6年では上回った。あいさつをすることと、きまりを守ることの肯定率については、あまり相関がなかったということになる。人権教育年間計画を立て、自分から進んで挨拶と返事をすることについて指導している。	B	
②心の教育	友だちから「がんばったね」「すごいね」と褒められてうれしかったことがあるの肯定率が全国値を上回る。	2・4・5年では下回り、3・6年では上回った。	B	褒められてうれしかった経験が全国値と比べて低いことが課題である。 遊びや学習等あらゆる機会を捉えて、友達の良いところ探しや自分の良いところ探しをするように仕組んでいく。併せて、褒める・褒められる機会を増やすよう、例えば、帰りの会や授業の終末に、友達の良かったところを評価しあう場面を取り入れていく。
	「悲しかった時、友達から慰めてもらって、うれしかったことがある」の肯定率が80%を上回る。	2年では下回り、3～6年では上回った。慰めてもらうことと、褒められることがあまり相関がないことがわかった。人権教育年間計画を立て、相手の気持ちを考えて行動することや信頼関係づくり等について指導している。	B	
③自尊感情	「勉強や運動、習い事などで、自慢できる得意なことがある」の肯定率が80%を上回る。	2・5年では肯定率が80%を下回り、3・4・6年では上回った。	B	夢をもちがんばっているが、自慢できるほど得意ではないという児童が少なからずいることが課題である。 上段で述べたことと重複するが、自尊感情を高める場面を取り入れて、褒める・褒められる体験を積んでいくことで自分を認められる子になることで、人の感情や考えを受け入れられるような心の土台を作っていく。
	「勉強や運動、習い事などで、頑張っていることがある」の肯定率が全国平均値を上回る。	2年は肯定率が全国平均より下回り、3年以上は上回った。	A	
	「大きくなったら、あんな人になりたい、こんなことがしたいといういい夢がある」の肯定率が全国平均値を上回る。	2・3・4年では肯定率が全国平均より上回り、5・6年では下回った。市民科の年間指導計画に沿って自尊感情について指導を行っている。	B	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立清水台小学校

評価項目３　体力・健康に関すること

重点目標	・主体的に学習に取り組み、自ら考え、判断、表現し、課題解決していく子を育てる ・自尊感情をもち、自他を大切にする子を育てる ・健康・安全を意識し、すすんで体を鍛える子を育てる		

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①体力向上	「学校の授業以外で週に何日くらい運動していますか」の肯定率が全国平均値を上回る。	2・4・6年では下回り、3・5年では上回った。	B	3学年で運動機会が全国平均値を下回ったことが課題である。 晴れた日で、WBGTに気を付けながら、外遊びができる日は外遊びを学校全体で奨励し、教員も一緒に外に出て遊ぶようにする。運動を記憶力の関連について学校だよりで触れ、家庭に対して価値づけを行った。
	区の体力向上施策の計画的な実施と朝や休み時間における外遊びを奨励していく。	ランニングタイム、スポーツトライアル、ワンミニッツエクササイズについて、年間計画を立てて実施している。ランニングは1月、スポーツトライアルは通年で月1回体育朝会で、ワンミニッツエクササイズは毎月頑張りカードを配布して実施している。	B	
②食習慣	「朝食を毎日食べている」の肯定率が全国平均値を上回る。	4年以外では肯定率が全国平均を上回った。	A	ほぼ目標を達成できたと考える。 今後も、食育を推進・継続していき、家庭と連携を図りながら食と健康づくりに関心をもつ児童を育てていく。
	年間通して、給食の残菜が全学年で10%を下回る。	達成できた。残さずよく食べている。教員も残菜が少なくなるようにお代わりを声掛けし配っている。現在は5%を目指している。	A	
	食に関する年間指導計画に基づき、食育推進・充実を図るとともに、食と健康づくりに関心をもつ児童を育てる。	給食時間に献立について毎日放送を流し、月目標を1回階段横に掲示し各学級で実態に応じて指導している。給食指導や各教科において食に関する指導を計画的に行っている。野菜の栽培やグリンピースのさやむき（1年）とトウモロコシの皮むき（2年）を実施した。	A	
③基本的生活習慣	「朝は自分で起きている」の肯定率が全国平均値を上回る。	2年以外では肯定率が全国平均を上回った。	A	2年が全国平均を下回っているのが課題である。 学校全体で改めて自分で持ち物を前日か当日の朝に確認してから登校するように、学級指導や家庭への呼びかけを通して習慣化を図っていく。
	「学校に行く前に忘れ物がないか、自分で確かめている」の肯定率が全国平均値を上回る。	2年以外では肯定率が全国平均を上回った。学級指導を通して、家庭と連携しながら習慣化を図っている。	A	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立清水台小学校

評価項目４　いじめの防止の取組に関すること

重点目標		・主体的に学習に取り組み、自ら考え、判断、表現し、課題解決していく子を育てる ・自尊感情をもち、自他を大切にする子を育てる ・健康・安全を意識し、すすんで体を鍛える子を育てる		
評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①学級風土	「いまのクラスが好きです」の肯定率が全国平均値を上回る。	2・4年では肯定率が全国平均を下回り、3・5・6年では上回った。	B	2・4年で肯定率が下回っていることが課題である。 学級経営や生活指導についてOJT研修等を通して学び合う機会を設ける。学習スタンダードや清水台小の一日を周知徹底できるように学校全体で取り組んでいく。
	クラスではみんなが当番や係の仕事をきちんとやるの肯定率が80%を超える。	4年以外では肯定率が80%を上回った。人権教育年間計画を立て、クラスや学校のきまりを守って生活することについて指導を行っている。	B	
②リスク管理	一人ぼっちになるかもしれないと不安に感じることがないの肯定率が80%を上回る。	2・4・5年では肯定率が全国平均を下回り、3・6年では上回った。	B	肯定率が全国平均を下回る学年が多いことが課題である。 区のSCが今年度（令和8年度）から配属され、デイケンやいじめDアンケート等のチェックが週に1度確実にできるようになり、いじめのサインへの早期対応・未然防止に努めることができるようになってきている。いじめと思われることが出てきたらすぐにいじめ対策委員会を開き組織的に対応していく。
	「クラスの人から、いやなことを何度も言われることがない」の肯定率が全国平均値を上回る。	2年以外では肯定率が全国平均を上回った。	B	
	「クラスの人から叩かれたりけられたりすることがない」の肯定率が全国平均値を上回る。	3・4年は上回り、2・5・6年は下回った。人権教育年間計画を立て、「みんななかよく」「思いやりの心」「みんなちがってみんないい」など、相手の立場に立や心情について理解を深めよりよい人間関係を築く指導を行っている。	B	
③自他の尊重	「友だちと喧嘩をした後、自分から進んで仲直りできる」の肯定率が全国平均値を上回る。	2・4・5年は肯定率が全国平均を下回り、3・6年は上回った。	B	「自分から進んで仲直りができる」の肯定率が3つの学年で全国平均を下回ったことが課題である。評価項目2とも関連するが、仲間を認め合い褒めあうことや話し合い活動を継続していくことで仲間づくりや仲間意識の涵養を進め、雰囲気作りを行っていくことで、間違えを認めやすい、許すことのできる、話しやすい環境を作っていく。
	「友だちに元気がないときに声をかけてあげる」の肯定率が全国平均値を上回る。	2年以外では肯定率が全国平均を上回った。	B	
	「困っている友達がいたら、手伝ってあげる」の肯定率が全国平均値を上回る。	全学年で全国平均値を上回ることができた。人権教育年間計画を立て、人権について学び、人を大切にできるように指導を行っている。「しながわ人権のひろば」人権標語・ポスター作成を全学年で行っている。	B	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和7年度　学校評価　品川区立清水台小学校

公開

評価項目５　（特色ある教育活動に関すること）

重点目標	・主体的に学習に取り組み、自ら考え、判断、表現し、課題解決していく子を育てる ・自尊感情をもち、自他を大切にする子を育てる ・健康・安全を意識し、すすんで体を鍛える子を育てる		
評価指標 最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①家庭・地域の充実 「学校は、教育方針、重点目標をもとに、一人一人を大切にした教育活動を行っている。」の肯定率が80%を上回る。	「現在通っている学校に満足していますか。」の肯定率が80%を上回る結果となった。	A	目標を達成することができた。 ホームページや学校だより、行事や学校公開、保護者会、個人面談などを通して、本校の教育活動や児童の様子について引き続き情報を提供し共有し、「開かれた学校づくり」を進めていく。
「学校はホームページやお便り、メール等で、保護者に学校の様子を提供している」の肯定率が80%を上回る。	「地域に開かれた学校づくりを行っていますか。」の肯定率が80%を上回った。学校の様子を写真でHPにアップ、学校だよりの発行、タブレットのteamsを使って児童に連絡することで保護者と宿題や時間割、持ち物等について共有した。	A	
「行事や学校公開、保護者会等を通して、教育活動や児童の様子をわかるようにしている」の肯定率が80%を上回る。	「地域に開かれた学校づくりを行っていますか。」の肯定率が80%を上回った。土曜公開日、学期ごとの保護者会、児童の成果物の教室掲示を行っている。	B	
②国際理解・表現活動の充実 お子さんが多様性について理解をすることは大切だと思うの肯定率が80%を超える。	「多文化について理解をすることは大切だと思うか」の質問では、学校肯定率80%を上回る結果となった。	B	目標を達成することができた。 今年度（令和8年度）も継続して左記のような体験活動を通して文化の大切さについて考えさせる機会を多く作っていく。
国際交流活動を通して、外国の文化や立場を理解し尊重する態度を養う。また、茶道や和楽器に親しむことで日本の伝統と文化への理解と誇りを育てる。	高学年での大使館交流、茶道、和楽器体験（箏）を実施予定。	B	
運動会や地域の祭りなどでのマーチング演奏や表現運動、学芸会に向けた取組を通じて、表現する楽しさや喜びを味わい、理解させる。	運動会でマーチング演奏をした。今年度は音楽会を実施。	B	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成